

今日のトピック 増益予想の一方、上値の重い欧州株式市場 12月は政治イベントが集中、不透明感払拭となるか注目

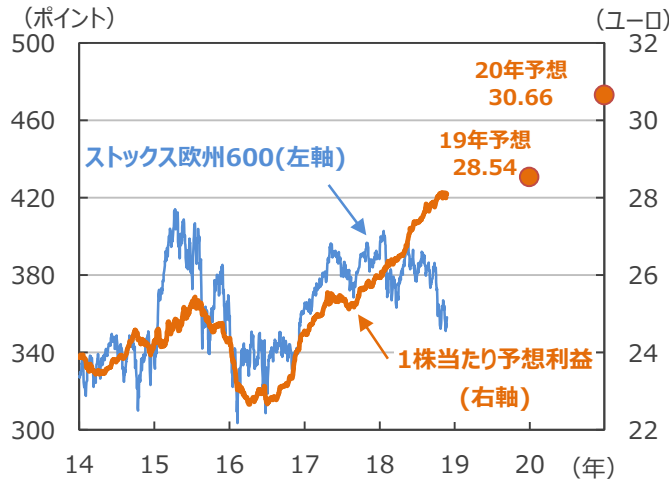
ポイント1 今年の欧州株は軟調に推移

- 欧州株式市場の動向を、代表的な株価指数であるストックス欧州600で見ると、2018年は軟調な展開となっています。昨年後半を直近のピークに欧州の経済成長が緩やかに減速していることに加え、米国の保護主義的な通商政策や、欧州域内の政治的な不透明感が続いていることなどから、株価の上値が重くなっています。

ポイント2 企業業績は緩やかに拡大

- 欧州企業の今年や来年の業績は、増益が続くと見込まれていますが、その拡大幅は2017年に比べて緩やかなものとなりそうです。欧州域内の堅調な雇用や賃金の増加が内需を支えるほか、ユーロ安も業績をサポートすると見られます。
- 欧州域内では、政治的な不透明要因が増えています。イタリアでは、ポピュリズム政党による新政権の2019年度予算は過剰に財政拡張的なものとなっています。欧州委員会は、イタリアの予算案が欧州連合（EU）の財政ルールに違反しており、制裁手続き入りが適正だとの報告書を作成しているなど、対立が続いています。
- また、英国のEUからの離脱（Brexit）に関しては、25日に開催された緊急のEU首脳会議で離脱協定案が正式に合意されました。ただし、英国内では閣僚が相次いで辞任するなど、メイ政権は難しい舵取りを迫られています。

【欧州株式と1株当たり予想利益の動向】



(注1) データは2014年1月3日～2018年11月26日。
(注2) 1株当たり予想利益は12カ月先予想（Bloomberg集計）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 12月は政治イベントが集中、不透明感の払拭となるかに注目

- イタリアでは、政府は当初の予算を修正し、財政赤字目標を最終的にGDP比で2.2%程度に下げる妥協案を検討中ですが、EUサイドはこれも不十分との見方を示しており、調整は今後も難航しそうです。英国では、12月11日に英国議会での離脱協定案の採決が予定されていますが、これも一筋縄ではいかなさそうです。このほかドイツでは、メルケル首相が州議会選挙大敗の責任を取る形で、12月に予定される与党大会での党首選への不出馬を表明しており、後任が親メルケル氏となるか、反メルケル氏となるかなどが注目されています。
- 一方、米中貿易摩擦については、今週末のG20サミットで予定されている米中首脳会談で、中国が米国に提出した142項目の行動計画に対して、どのような合意内容が示されるのかが注目されています。

ここも
チェック!

2018年11月16日 離脱協定の合意で再び動き出した『Brexit』
2018年11月 6日 党首退任の『メルケル』、首相続投できるのか？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。